

(福) ケアハウス信愛館

七月になり今年も暑い夏を迎えそうです。旧八日市中学校で青春時代を過ごされた入居者の武地孝治さんに学徒動員の体験を綴っていただきました。

干拓学徒碑

武地孝治

浜街道を安土の峠を越える。東近江市きぬがさ町南須田のあたりに我々の記念碑がある。

草が生い茂り植樹された桜も好き勝手に枝をひろげているところに石碑が三つ、その一つが平成九年に我々が建立した記念碑である。

動員当時の担任でもあり動員中の生活もともにしてくださいました湯本信良先生の書「干拓学徒碑」が刻まれた石碑である。

難儀してうしろへ回ると変色した銅版に作業地への

往復に歌った「干拓学徒の歌」の一節が記されている。

♪ 比良の雪映してよどむ
清澄の鳩の湖辺は古の都
の跡ぞ遠近の 人のゆかしと
讃えくる ……………

いざ求めなん國の富 高し高し
干拓学徒の望み

建碑の由来、有志六十五人の名前も記されている。



昭和十九年戦争による人手不足のため学徒動員令が発令されたのである。全国中等学校以上の生徒・学生は男女をとわず軍需産業その他へ動員されたのだった。我々県立八日市中学校(旧制)三年生は昭和十九年九月から二十一年九月までの一年間、大中の湖の干拓事業へ動員された。天理教能登川大教会と駅裏の日清紡社員寮へ分宿して能登川須田地先の承水



路作業に参加したのである。大中の内湖へそそぐいくつかの川を直接琵琶湖へ導く水路が承水路である。重機はなくスコップで掘り上げた土を畚で運ぶ、すべて人力の土方仕事だった。

昭和二十年になると飛行機雲を引いて飛ぶB29の編隊を見るようになる。ときには使い残しの弾丸を

我々の頭上に振り撒いて帰艦する艦載機もあり敵愾心の拳を突き上げた。戦死はあたりまえだが戦いに負けるなんて思いもしない戦時下の少年だった。

「戦いに破れ街は焦土と化した湖底は美田となった」

建碑の由来に書かれたごとく整然と連なるビニールハウスやひろがる農地を眺めると泥まみれだった青春の日々に悔やみはない。草いきれ青春の碑も苔むして 小路朗